

車両点検(走行及び負荷試験、プラウ動作確認、グリスアップ、オイル交換) 作業手順

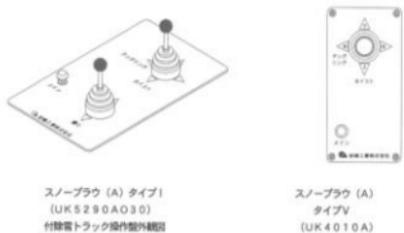
	内容	留意事項
準備工・作業開始	雪氷基地にて車両点検を行う。 車両カブンの準備する。 使用車両の準備する。	・車両カブ内業務用プレート、鍵の有無を確認する。 ・車両点検時はヘルメット、手袋、安全靴を着用する。
作業中	<p>①フロントプラウの油圧系統機器 ・レバー操作により、上下、左右、アングリング及び開閉動作を行う。 ※稼働領域最大時に、要に5秒レバーを倒し負荷をかける。 ・3回繰り返し実施する。(日常点検時は1回) ・油圧パイプのジョイント部の油漏れ点検 ・プラウの油圧ホース本体の点検 全数を対象に、保護カバーを10~20cm程度外し確認する。</p> <p>※点検するポイント 1.ホースの干渉、摩耗、つぶれ、亀裂及びびじれ 2.ホース接続部の緩み、油漏れ、破損 3.接続部の腐食状況 4.ホースの支持状態、ホースクランプの状態 5.車両下部からの油漏れ 6.作動油量</p> <p>②湿塩散布機のホッパーカバー開閉用アーム(コラム鋼材)開閉装置の開け閉め ※点検ポイント 1.スイッチ操作により、ホッパーカバーの開閉を2~3回実施する。 2.目視により点検を行い、気になる箇所があれば、ハンマーで打音して破壊点検を行う。結果、腐食により破壊しても良いものとする。</p> <p>③ブレーキ系統 基地ヤード内で車両を自走し、強めのブレーキ操作をする。 ※点検ポイント 1.踏み残りしろ 2.効き具合 3.異音 4.圧縮空気の圧力計 ※圧力計は運転席のメーターの中に装備されている。 針がレッドゾーン(500kPa以下)に落ちたら異常値となる。</p> <p>④本線走行試験(車両本体全般の確認) 本線を実際 基地間で走行する。 1.異音 2.運転装置(ハンドル、シフト、レバー、ペダル) 3.各種メーター、警告ランプなど 4.直達性、ハンドリング 5.油漏れ、ハンドリング</p> <p>⑤その他の装置装置の稼働 散布装置(散布機、散布量など) 1.ベルコン、円盤、モーターの動き及び異音 2.タンクに水を入れ円盤から水が通常で出るか</p> <p>標識装置(表示) 1.操作盤どおりに表示されるか 2.表示に、欠損・欠落がないか</p> <p>車両カブンを返納する。</p> <p>異常があった場合、記録とマーキングを行う。取替えの判断は、車両担当へ報告後行い実施する。</p>	<p>これらの作業は2名(OP&他 確認者)以上1組で行うこと。</p> <p>【車両点検中の留意点】 ・操作盤によって、操作方法が異なる。そのため誤操作防止として車両ごとに操作盤の表示を毎回確認すること。 (※操作盤の種類と基本操作は車両参照すること。)</p> <p>・OPによる操作(動作確認)は周囲に作業員(確認者)がいないことを確認してから行うこと。</p> <p>・車両を動かすときは、周囲に作業員(確認者)がいないことを確認するだけではなく、合図(クラクション)を鳴らすこと。 ※OP及び他 確認者に無視権を持たせることを推奨。</p> <p>・確認者がプラウ 又は、ホッパー付近で作業(点検している時、OPは操作を行わないこと)。</p> <p>・誤操作防止の観点から、点検中は操作盤から手を放す 及び、メインスイッチを切っておくこと。</p> <p>【本線走行中の留意点】 ・本線走行試験は、雪氷期間中の車両配備と並行して行う。 ・本線走行時は、先行を把握し、経路の確認を行うこと。 (必ず2名乗車) ・出発前に日常点検を行うこと。 ・交通量が多い昼までの回避である為、注意して走行すること。 雪氷対策作業中の走行とは違うことを念頭に入れておくこと。</p> <p>・車両カブ内業務用プレート、鍵の有無を確認する ・車両貸出が多いため、業務用プレート及び鍵の紛失に気を付ける。 ・業務用プレートの入れ間違いないように確認する。</p>
作業終了		

注意事項

- 本作業は巻き込み、及び踏み事故が最も可能性が高いと考えられる。
要因として、人的要素が大きいため以下の3点については、朝礼・夕礼を行って周知する必要がある。
・作業員間の連携(コミュニケーション)不足による合図の見間違い、聞き違いの事故
・OPの思い込み等による車両の誤操作
・1点に集中による周囲の状況が見えなかった 等

1. 操作盤

操作盤は運転席左側に設置されており、車両及び稼働装置によって形状が異なります。



3. 負荷試験

試験は2名1組で、1回当たり下記表の試験方法を6セット実施する。
試験実施後、運転ホースの点検時のチェックポイントの点検ポイント①~⑥を確認し、点検表に記入。
異常が確認された場合、整備管理者又は整備管理補助者に速やかに連絡する。

タイプ	試験方法
A-1~IV (共通)	<p>プラウの昇降 ①メインSWを入れる。 ②プラウホイスTWSを「上」方向に倒しプラウを最大値まで上げる。 ③最大値の状態を5秒保持(プラウホイスTWSを右に倒した状態を5秒保持) *1 ④プラウホイスTWSを戻す。(SWレバーを中立に戻す)</p>
A-1~IV (三折)	<p>プラウのアングリング ①メインSWを入れる。 ②アングリングSWを「右」方向に倒しプラウを最大値まで向ける。 ③最大値の状態を5秒保持(アングリングSWを右に倒した状態を5秒保持) *1 ④アングリングSWを戻す。(SWレバーを中立に戻す) ⑤アングリングSWの倒す方向を「左」に変更し②~④を実行する。</p>
B-1 (二折)	<p>プラウの拡大・折畳 ①メインSWを入れる。 ②拡大・折畳SWを「拡大」方向に倒しプラウをフル状態を最大値にする。 ③最大値の状態を5秒保持(拡大・折畳SWを拡大に倒した状態を5秒保持) *1 ④拡大・折畳SWを戻す。(SWレバーを中立に戻す) ⑤拡大・折畳SWの倒す方向を「折畳」に変更し②~④を実行する。</p>
B-II	<p>プラウの拡大・折畳 ①メインSWを入れる。 ②拡大・縮小SWを「拡大」方向に倒しプラウをフル状態を最大値にする。 ③最大値の状態を5秒保持(拡大・縮小SWを拡大に倒した状態を5秒保持) *1 ④拡大・縮小SWを戻す。(SWレバーを中立に戻す) ⑤拡大・縮小SWの倒す方向を「縮小」に変更し②~④を実行する。</p>

◎ポイント

最大可動域でホースの内圧が最大値(140kg)に達する。
内圧が最大値に達すると表示ランプのLEDが点灯すると共に油圧ホースが**膨らみ(赤くなる)**になる。
この変化を視・目・触知のいずれかにより確認。確認後5秒保持する。

*1:最大値の状態を5秒以上続けるとポンプ等の**故障**に繋がる場合が御座いますので、厳守願います。
また、**声に代りて**「1・2・3・4・5」とカウントすることを推奨いたします。

油圧ホースの点検時のチェックポイント



<点検ポイント>

- ① ホースの干渉、摩耗、つぶれ、亀裂、及びびじれの有無の確認
- ② ホース接続部の緩み、油漏れ、破損の有無の確認
- ③ 接続部の腐食状況(錆の進行状況)の確認
- ④ ホースの支持状態、ホースクランプの状態を確認(変形・損傷の有無)
- ⑤ 車両下部からの油漏れの有無の確認
- ⑥ 作動油量の確認

2. 基本操作

操作内容	操作内容
<p>除雪装置すべてのメインスイッチです。</p>	<p>①スイッチを上下に倒すと、スノープラウが昇降します。 ②スイッチを左右に倒すと、スノープラウがアングリングします。 なお、B-IIにアングリング機能はありません。</p>
<p>スイッチを前後に倒すと、スノープラウが拡大・折畳します。 A-1~IVに採用。</p>	<p>スイッチを前後に倒すと、スノープラウが拡大・縮小します。 B-IIに採用。</p>